

2021年6月15日

車両管理システムにおける 荷役機械の検査・修繕管理機能の導入について

当社では、2018年10月より、機関車、貨車等の検査・修繕履歴の管理をリアルタイムに行い、故障履歴等のデータを蓄積・解析することで、安定輸送、適切な保守コストの導入を図ることを目的とした車両管理システム（以下、「同システム」。）を開発・運用しております。このたび同システムを改修し、2021年6月から、フォークリフト及びトップリフターの荷役機械についても検査・修繕管理できる機能（以下、「本機能」。）の運用を開始しました。

これにより、全国の機関区、車両所及び貨物駅にある機関車、貨車からフォークリフトまですべての営業用車両について、日々の検査進捗、検査結果、故障情報、修繕内容等のデータが同一システム内にてリアルタイムに一元管理可能となり、更なる営業用車両の運用効率の向上、故障傾向分析の深化による保守コストの最適化を目指します。

当社は、今後も持続可能な社会の実現を目指しながら、安全・安定輸送を提供し、さらなるお客様サービスの向上に努めてまいります。

1. 本機能の特徴

これまで全国に点在する営業用車両の検査計画、検査結果等は、各区所にて紙にて記録を残し、各区所にて管理していましたが、同システムでは検査担当がタブレット端末から入力し、車両台帳・検査計画・検査結果・修繕内容把握・稼働実績・故障実績等のデータをリアルタイムで把握し、一元的管理を可能としています。このたび、荷役機械についても同等の機能を導入し、営業用車両についての管理が可能となりました。

(1) 運用開始 2021年6月1日

(2) 管理台数

種類\支社							(台)
	北海道	東北	関東	東海	関西	九州	計
12ft用フォークリフト	47	46	124	44	94	55	410
20ft用フォークリフト	7	9	23	7	30	9	85
トップリフター	7	11	30	11	29	13	101
計	61	66	177	62	153	77	596

(2021年4月1日現在)

(参考；2021年4月1日現在)

- ・機関車 566両 (電気機関車 417両、ディーゼル機関車 149両)
- ・貨車 9,300両 (JRコンテナ車 7140両、私有貨車 2107両、その他 53両)
- ・貨物電車 42両

2. 効果

本機能の同システムへの導入によって以下の効果が期待されます。

- (1) 過去の整備状況の俯瞰的確認による故障原因把握の迅速化
- (2) 走行距離、稼働時間、検査内容の把握による、稼働に応じたメンテナンス計画の実現
- (3) メンテナンス計画把握による効率的な代車計画の実現
- (4) 緊急対応、緊急点検の一括指示
- (5) 検査、故障・修繕データの蓄積とそのデータ解析による故障の予測や機器の劣化把握
- (6) 車両故障の削減や復旧までの時間短縮

車両検修区所
協力会社（フォーク）



① 実施した検査内容と結果を
モバイル端末でシステムに登録

② 登録された検査結果の整合・可否や
特別点検の有無をシステムが判断

車両管理システム



③ 検査結果、検査計画等を
一元管理

本社・支社（管理部門）



④ 作業進捗や検査統計など
管理情報を自動集計して提示